

# 茨城県水産業振興計画【2016～2020】の概要

## 1. 計画策定の趣旨

県の新たな総合計画の目指す方向及び国の「水産基本計画」や「農林水産業・地域の活力創造プラン」等に基づき展開される今後の施策を踏まえ、県民の理解と参画のもと、力強い茨城漁業の確立、高品質な水産物の供給及び交流・連携による漁業地域の活性化などを進めるために、本県水産業行政における今後の基本方向や取り組むべき施策を内容とする新たな水産業振興計画を策定した。

## 2. 現状と課題

### 漁業

- 魚価の低迷等により、沿岸漁業の所得はピーク時から半分以下に減少しており、所得確保による経営安定が課題。
- 漁協組合員数は10年で約2割減少、漁協の事業利益も赤字が継続し、組織基盤の強化が必要。

### 食

- 首都圏における県産主要水産物の認知度は、アンコウを除き、1～2割程度となっており、県産魚のPRが必要。
- 消費者の魚離れが進んでおり、消費者への積極的な情報発信による魚食普及が必要。

### 地域

- 水揚量の減少や水産加工業の販路縮小等が課題、漁業や関連産業も含めた地域活性化が必要。
- 本県の水産加工業は煮ダコや塩干品など全国有数の生産量を誇るが、産地イメージの向上が課題。

## 3. 施策の展開方向

<基本理念>

### 高品質な水産物を供給する力強い茨城水産業の確立

#### 力強い茨城漁業の確立

- 漁業経営の安定**
    - ・水揚げの変動に左右されにくい漁業経営の構築
    - ・無駄のない操業や魚の価値向上で漁業者の手取り確保
  - 担い手の確保・育成**
    - ・地域が一体となって就業者を受け入れる仕組みづくり
    - ・先進的な活動を行う漁業者グループ等の支援
  - 水産資源の持続的利用と漁場の整備**
    - ・つくり育て管理する漁業の推進と資源の有効利用
    - ・資源の増大に役立つ魚礁の設置や藻場の整備
  - 水産業協同組合の組織強化**
    - ・漁協の合併や事業統合による組織の強化
    - ・組織を支える人材育成や経営管理の強化
- ・効率的な漁業のための魚群の調査・予測  
・資源を増やし管理しながら利用するための研究

#### 消費者ニーズに応えた高品質な水産物の供給

- 産地販売力の強化と安全安心な水産物の供給**
    - ・新たな販売ルートの構築など産地販売力強化
    - ・第三者認証制度の活用や高品質化によるブランド化の推進
    - ・漁港衛生管理の強化等による安全安心な水産物の提供
  - 地魚の県内供給強化と情報発信**
    - ・県内流通の増加促進と情報発信の強化
    - ・地魚を活用した食育の推進
  - 水産物の生産・流通拠点となる漁港等の機能強化**
    - ・漁港等の長寿命化を推進
    - ・共同利用施設や高度衛生管理機器の整備支援
- ・衛生管理の指導と安全安心のための水産物の検査

#### 交流・連携による漁業地域の活性化

- 漁業地域のにぎわい創出**
    - ・魅力ある漁業地域の食づくり支援
    - ・旅行・観光業者と連携した集客の向上
    - ・体験漁業や産地交流会の開催、遊漁船業者への支援
  - 水産加工業の振興**
    - ・個性豊かな水産加工品の開発支援
    - ・水産物輸出の推進
    - ・優良産品認定制度などによる産地のPRやHACCP導入支援
- ・水産物の価値を高める技術や利用方法の開発

調査・研究の推進

#### 霞ヶ浦北浦・内水面の水産業の振興

- 霞ヶ浦北浦の水産業の振興**
  - ・ワカサギ等における資源管理型漁業の高度化や高品質化を推進
  - ・コイ等の産地ブランド確立による養殖経営の安定

- ・ワカサギ等重要魚種の資源生態研究や資源モニタリングの充実
- ・効果的な資源増殖手法の開発や魚類防疫対策の充実

調査・研究の推進

- 霞ヶ浦北浦の漁場環境保全**
  - ・水生植物帯の造成と保全活動への支援
  - ・外来魚の駆除等を通じた窒素、リンの除去による富栄養化の防止

- 内水面の水産資源の有効活用**
  - ・シジミ、アユ、サケ等の主要資源の活用推進
  - ・稚魚の放流等による河川環境保全意識の醸成